

(財)地震予知総合研究振興会

柏崎地域の地形及び地質構造の形成過程に関する検討委員会（第六回）

概要報告

1. 日時 平成23年10月20日（木） 14:00～16:30

2. 出席者

主査	山口大学大学院	教授	金折 裕司
委員	産業技術総合研究所	研究グループ長	荒井 晃作（海洋地質）
	平成帝京大学	教授	伊藤 谷生（構造地質）
	東京大学地震研究所	助教	蔵下 英司（陸域地殻構造）
	産業技術総合研究所	研究員	丸山 正（活断層）
	徳島大学大学院	教授	村田 明広（構造地質）

事務局 (財)地震予知総合研究振興会

(敬称略)

3. テーマ

- (1) 稠密地震観測データによる日本海東縁部の地殻構造
- (2) その他

4. 委員会の状況

前回に引き続いて、柏崎地域の褶曲形成史を解明する上で重要な情報である文部科学省による「ひずみ集中帯プロジェクト」の研究成果について話題提供を受け、それに対する質疑応答等を通して、佐渡島を含む日本海から新潟平野に至る地殻構造モデルについて議論がなされた。

また、これまで2年間にわたり行われてきた議論を踏まえて、今後の論点整理がなされた。

(1) 稠密地震観測データによる日本海東縁部の地殻構造

文部科学省の「ひずみ集中帯プロジェクト」で実施された佐渡島を含む日本海から新潟平野に至る深部地殻構造探査結果について、話題提供がなされた。これによると、深部反射法地震探査断面の下部地殻内に確認された東傾斜の反射面は、日本海拡大時に形成された断層であると解釈されている。この断層は、空間的には中越沖地震の震源断層の深部延長上に位置している。

この上部地殻から下部地殻にまで達する断層が地質構造形成に果たした役割についての議論がなされ、その解明には浅部地質構造との整合性が重要であるとの意見集約がなされた。

(2) その他

これまでの議論を踏まえ、当該地域の地形及び地質構造の形成過程を説明するモデルを構築するには、地質構造を形成する上で重要な役割を担っている主断層とその形状および活動センスを、これまで得られてきた各種の地球科学的データからどのように認定するのかが課題とされた。

これについては、今後も引き続き、本委員会において、解析手法の限界も含めて最新の研究成果を参照しつつ検討されることとなった。

以 上